

令和6年 第13回 宇都宮市教育委員会

付 議 事 件 表

令和6年8月23日

1 報告事項

議案番号	件 名	頁	会議公開 (予定)
報告第39号	令和6年度教育委員会主要事業の進行管理について	1	○
報告第40号	教育行政相談の内容と対応について	2	×
報告第41号	令和5年度いじめ、暴力行為、不登校の状況について	3	×

2 その他

番号	件 名	頁	会議公開 (予定)
(1)	令和6年度第1回社会教育委員の会議の結果について	資料	○

報告第39号

令和6年度教育委員会主要事業の進行管理について

令和6年度教育委員会主要事業の進行管理について、次のように報告する。

令和6年8月23日提出

宇都宮市教育委員会

教育長 小堀 茂雄

別紙のとおり

令和6年度 教育委員会主要事業 管理票(令和6年度7月末現在)

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(1)教育で選ばれるまち宇都宮の推進			
<p>◆教育で選ばれるまち宇都宮の推進</p> <p>教育企画課</p>	<p>4月～ ・校長会議で全国的に優れている教育環境や取組の成果等について報告 ・市長部局(子ども部)と連携したプロモーションの検討・調整</p> <p>7月 ・子育て世帯をターゲット層としたPR項目等の検討</p>	<p>○ターゲットに応じたPR項目の集約(パッケージ化) ⇒ 教育環境や取組の成果等, PRする内容のブラッシュアップを行いながら, 子育て世帯等の興味関心を高める見せ方等について検討を進める。</p> <p>○戦略的な情報発信 ⇒ 子育て世代をターゲットとしたプロモーション活動「#ずっと, 宇都宮」(子ども部)において, 教育に関するPR項目を組み込み, 商業施設等においてリーフレットを配布する。 ⇒ 魅力創造部における都市ブランドプロモーション活動との連携に向け, 調整を行う。</p>	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(1) 学校施設の計画的な整備・更新			
◆校舎・体育館の計画的な長寿命化	4月～ ・星が丘中学校校舎長寿命化改修工事の実施(R4.8月～R6.10月) ※校舎の改修は6月で完了 ・西小学校校舎長寿命化改修工事の実施(R5.6月～R8.1月) 5月～ ・西原小学校・晃陽中学校校舎長寿命化改修工事実施設計の実施(～R7.2月) ・今泉小学校体育館改築工事実施設計(～R7.2月) 7月～ ・城東小学校体育館長寿命化改修工事の実施(～R7.2月) ・横川中央小学校体育館改築工事南側外構移設工事の実施(～R6.8月)	○校舎・体育館の計画的な長寿命化 ⇒ 長寿命化改修工事の実施による学校生活への影響等について、学校や地域に対し、丁寧な説明を行っていく。 ⇒ 脱炭素化など学校施設に対する多様なニーズに対して、市全体の方針等を踏まえながら、関係部署と連携し、設計に反映していく。 ※10月～ 上河内中学校校舎長寿命化改修工事の実施 横川中央小学校体育館改築工事の実施(～R8.3月)	
(2) 学校トイレ洋式化の計画的推進			
◆校舎・体育館トイレ改修工事の円滑な実施	4月～ ・校舎トイレ改修工事の実施(小学校14校, 中学校5校) (～R7.2月)	○校舎・体育館トイレ改修工事の円滑な実施 ⇒ 工事による学校生活への影響等を最小限とするため、実施時期などについて、学校や庁内関係部署と綿密な連携・調整を図っていく。 ※12月～ 体育館トイレ改修工事の実施(小学校16校, 中学校7校) (～R7.2月) → 校舎・体育館トイレの洋式化率(見込み): 83.8%(R7.3月末予定)	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(1)学力の向上(GIGAスクール構想の実現等)			
◆個別最適な学びと協働的な学びに向けた端末の効果的な活用	4月 ・協働学習ツール, AI型個別学習ドリル, MEXCBTの活用開始	○全市的な取組水準の向上 ⇒ 各学習ツールの効果的な活用方法や場面について調査研究を進める。 ⇒ 教職員に対して「リアルとデジタルのベストミックス」に係る指導助言や指導資料の配付により, 学びの本質に迫るための1人1台端末をより効果的に活用した授業改善に努める。 ○学力向上に向けたデータ利活用の検討 ⇒ AIドリルや各種学力調査, 協働学習ツール等から得られるデータを一元化し可視化する方法についても調査研究を進め, 今後の学力向上に係る取組について検討する。 ⇒ GIGAスクール構想推進会議を開催し, 学識経験者や国の学校DXアドバイザーからの意見聴取を行うとともに, 市のDX補佐官等からの意見聴取を行いながら, 取組を推進していく。	
	5月 ・学習者用デジタル教科書(英語及び算数・数学)の活用 ・小学校新1年生の端末使用開始 ・学校訪問における指導・助言の開始		6月 ・児童生徒個人用パソコン利用に係る個人情報取扱いについて, 保護者宛て通知
◆STEAM教育の基盤となる「U-STEAM学習」の実施	4月 ・第1回校長会議で小学校におけるU-STEAM学習の開始に係る周知及びデジタルシティ体験の活用について連絡	○小学校におけるU-STEAM学習の開始 ⇒ 総合訪問の際に実施状況を把握し, 指導助言を行う。	
	6月 ・中学校モデルプラン・年間指導計画の作成の方向性に係る協議(各教科等担当指導主事)	○令和7年度の中学校におけるU-STEAM学習の開始に向けた準備 ⇒ 教科用図書採択結果を踏まえ, U-STEAM学習に関連する「宇都宮市プログラミング教育年間指導計画」, 「U-STEAM教育関連表」の更新, 修正等を行い, モデルプランの作成と年間指導計画への位置付けについて, 市教委から中教研各部会に提示する。	
	7月 ・中学校モデルプラン・年間指導計画の作成に係る担当者協議(市教育センター, 学校教育課担当者)		

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
学校教育課 ◆「宇都宮市英語教育強化プラン」の充実	4月 ・第1回校長会議において、英検IBAによる英語能力診断の実施に係る周知 5月 ・宇中教研外国語部会において英検IBAによる英語能力診断の実施に係る周知 ・イングリッシュキャンプ募集開始 7月 ・ALTの研修への参加(ALT 12名) ・小学生対象イングリッシュキャンプ実施(小学生参加 131名) 8月 ・宇中教研外国語部会において英検IBAによる英語能力診断の実施に係る周知 ・中学生対象イングリッシュキャンプ実施(中学生参加予定 70名)	○客観的な指標をもとにした英語力判定機会の創出 ⇒ 英検IBAの実施により、生徒の英語への学習意欲向上を図る。 ○児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成 ⇒ 授業内外でのALT活用を充実させるとともに、イングリッシュキャンプを継続的に実施する。	
(2)コミュニティ・スクールモデル校における実証事業に向けた取組の推進			
学校教育課 ◆コミュニティ・スクール試行的導入事業に向けた取組	4月 ・要綱等の適用 ・校長会議において概要を説明 ・魅力協会長対象説明会の実施 ・モデル校公募について通知 ・外部有識者会議の委員の公募開始 5月 ・魅力協支援会議において進捗の報告 6・7月 ・外部有識者会議の委員選考	○外部有識者会議の実施 ⇒ 本市におけるコミュニティ・スクールの有効性についての検証方法等について意見交換を行う。 ○モデル校の指定及び委員の任命 ⇒ モデル校候補校の選定を行い、学校及び地域による内諾を得た上で、モデル校として指定する。また、校長による委員の推薦に基づき、委員を任命する。 ○モデル校を対象とした研修の実施 ⇒ モデル校の学校運営協議会委員等を対象に、市が作成した手引きを活用し、モデル事業及び学校運営協議会の役割等について理解を深めるための研修を実施する。	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(2) 学校給食における地産地消の推進			
学校健康課	4月～ ・トマト給食の実施 ・トマト加工品の商品化について事業者との検討を実施	○旬を意識した地場産物の活用 ⇒ 市産トマトを使用した「トマト給食」だけでなく、トマト以外にも、本市及び本県で生産量が多い食材や本市の地場産物を旬に応じて活用した給食を提供していく。	
	5月 ・第1回学校食育研究会議の開催(全小・中学校の栄養士へ、今年度の取組方針等を説明)	○学校と直売所等とのマッチング ⇒ 学校へマッチング事業とその活用事例を紹介し、活用を積極的に促していく。	
	6月 ・全小・中学校において地産地消強化週間(地場産物を積極的に活用した給食の提供)の実施 ・旭地域学校園の小・中学校4校と民間事業者との地場農産物の供給に関するマッチング事業開始	○好事例(地場産物使用割合の高い学校の取組)の周知 ⇒ 各学校や地域学校園において、地場産物使用割合に差が生じていることから、地場産物使用割合が高い学校や地域学校園の取組を把握し、全小・中学校へ好事例として周知していく。	
	7月 ・地場産物の使用割合が高い学校等へのヒアリングの実施 ・第2回学校食育研究会議の開催(地場産物の使用割合向上のための方策について検討) ・トマト料理コンクール募集開始		

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(1) 効果的な地域教育の推進			
◆デジタル技術の活用	4月 ・生涯学習関係職員研修 4月～ ・「二十歳を祝う成人のつどい」における電子受付の導入検討 ・公共施設予約案内システムの更新にあわせた運用ルールの見直し ・生涯学習情報提供システム(マナビス)やSNS等を活用した情報発信 ・クラウド型ツールを利用した市民大学オンライン受付 ・WEB参加可能な講座の開催 ⇒中央生涯:乳幼児と保護者向け「子育て広場」	○デジタル技術の活用 ⇒ デジタル技術の活用に関する研修の内容を職員同士で共有する。 ⇒ 市が導入する「イベント予約システム」について、「二十歳を祝う成人のつどい」の受付への活用を検討する。 ⇒ 公共施設予約案内システムの更新にあわせ、既存の運用ルールの見直しについて検討する。 ⇒ 引き続き、生涯学習情報提供システムやInstagram, Youtubeを活用し、講座やイベントの案内、内容の発信等に取り組む。	
◆読書活動の推進	4月～ ・うつのみやこども賞40周年記念事業の準備 ⇒ 記念式典を令和7年1月26日(日)に宇都宮ライト キューブにて開催することを決定 (教育委員会のほか、令和6年度第1回社会教育委員の会議、第2回校長会議で報告) ・「宇都宮市電子図書館」の利用促進 ⇒ 登録者数:12,707名、貸出累計17,842回 (令和6年7月末現在) ・読書バリアフリーの推進 ⇒ 高齢者福祉施設に対し大活字本や朗読CDを周知 ⇒ 活字による読書が難しい子どものためのアクセシブル資料のニーズの把握に着手 ⇒ 見て・聞いて・さわって楽しめる「夏休み読書バリアフリー資料展」開催(中央図書館:7月30日)	○うつのみやこども賞40周年記念事業 ⇒ 記念式典の開催に向けて、受賞作家の表彰式や講演会に加え、子どもの認知度が高い作家を招へいし来場者が楽しめる企画の実施を検討する。 ⇒ 歴代受賞作品の紹介や受賞作家からの寄稿等を掲載した記念誌を作成・配付する。 ⇒ 市立小中学校、市立図書館、地区市民センターなどの公共施設や市内書店と連携した「うつのみやこども賞コーナー」の設置、パネル展の開催などを検討する。 ○「宇都宮市電子図書館」の利用促進 ⇒ 教育センターと連携し、不登校児向けメタバース空間「U@りんくす」を通して、電子図書館の利用促進に取り組む。 ○読書バリアフリーの推進 ⇒ 引き続き、高齢者福祉施設での周知を進めるとともに、アクセシブル資料の導入拡大と周知啓発に取り組む。 ○その他 ⇒ ライトライン開業1周年記念事業として、宇都宮市立図書館で「記念しおり」を配布する(8月下旬～)	・R6.4 教育委員会(報告) → うつのみやこども賞40周年記念事業について

生涯学習課

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
◆大学・企業等との連携	5月 ・企業との意見交換 宇都宮工業団地管理協会 学び直し(リカレント教育)に係るニーズ確認 6月 ・大学との意見交換 宇都宮大学 学び直しの制度について現況確認	○大学・企業等との連携 ⇒企業や大学との意見交換を踏まえ、学び直しに関する講座を平出工業団地と共催で開催する(8月27日:企業間交流を通じた次世代リーダー育成講座)。	
(2) 宮っ子ステーション事業の円滑な運営			
◆子どもの家の安定した運営に向けた指定管理者への指導・監督・助言の実施	4月～(随時) ・8ブロックについて、2期目の指定管理業務の開始 ・毎月の指定管理者の業務報告に合わせた事務打合せの実施 ・指定管理者の本部職員、支援員、利用者、地域からの個別の相談対応・意見交換の実施 6月 ・管理運営評価(一次評価)の実施	○子どもの家事業の安定運営 ⇒ 指定管理者の毎月の業務報告や随時の相談対応・意見交換に加え、10月から12月にかけて実施する実地調査や利用者アンケート、地域との意見交換会等により、現場の運営状況や利用者・地域の意見を正確に把握し、指定管理者への必要な支援・指導を実施することにより、利用児童及び保護者のサービス向上を図る。	
◆子どもの家と宮っ子ステーション推進委員会との連携のあり方の整理	7月 ・各宮っ子ステーション推進委員会向けのアンケートの作成	○アンケート等の実施 ⇒ 8月にアンケートを実施するほか、地域との意見交換会(10月～11月)を踏まえて、推進委員会との連携のあり方を整理していく。	
◆放課後子ども教室の実施校区拡大に向けた地域支援の充実	4月～ ・R6アドバイザーリストの作成(企業による体験・活動の充実、見やすさ・検索性の改善) 5月 ・未実施校区(9校区)の地域団体(魅力協)へ、実施に向けた検討依頼通知の発送 6月 ・実施校区(58校区)へのR6アドバイザーリストの発送 7月 ・未実施校区へ聞き取り調査(3校区)	○未実施校区への働きかけ ⇒ 未実施校区については、地域・学校への聞き取り等により、地域団体が抱える課題を把握し、その内容に応じた具体的な解決策の提案や、立ち上げに向けた積極的な支援を行う。 ○実施校区の活動内容拡充に向けた支援 ⇒ コーディネーター向け研修会(工作・サイエンスショーなど)や、随時の情報提供などを通じ、学習支援やスポーツ・文化活動、交流活動への支援を行っていく。	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(1) 特別支援教育の推進			
◆教員の指導力や学級経営力の向上 ◆個に応じた指導の充実	4月～ ・特別支援学級等担当教員研修の実施(4月, 8月 悉皆) ・指導主事や市教委会計年度任用職員(学校生活適応支援アドバイス業務)等による学校訪問(通年)の実施(7月末 25校62ケース) ・かがやきルーム担当者研修の実施(年3回実施) 6月～ ・通級による指導の充実に向けた自立活動の授業研究(宇大との連携事業)(継続) ・特別支援教育の視点を取り入れた授業力向上研修の実施(教職6～9年目対象 年2回)	○特別支援学級等担当教員の指導力や学級経営力の向上 ⇒ 指導主事等が学校訪問し, 特別支援学級等担当教員に対して, 直接指導・助言を行うことで, 特別な教育的支援が必要な児童生徒への指導力向上を図る。 ⇒ 教職員向けに特別支援教育便りを発行することで, 障がいの特性に応じた授業力の向上を図る。 ⇒ 「通級による指導の充実に向けた自立活動の授業研究(宇大との連携事業)」を実施することで, 通級指導教室と在籍校の情報の共有による有効な支援方法や, 自立活動の指導の充実を図る。 ⇒ すべての教職員が, 児童生徒一人一人の発達段階や特性に応じて, 1人1台端末等を活用できるよう, 教職員研修の実施やICT支援員による授業サポートを行うことで, 個に応じた指導の充実を図る。	
◆適切な人的配置による支援	4月 ・全小中学校94校に特別支援教室(かがやきルーム)担当を配置 ・会計年度任用職員(特別支援学級担当, 医療的ケア支援業務, 学校生活補助業務, 要配慮学級緊急対応業務)の配置 5月～ ・かがやきルームを利用する児童生徒の活用報告書による利用者数の実態調査(年2回) ・通級による指導を必要とする利用児童生徒数調査(年2回) 6月～ ・要配慮学級緊急対応業務(市会任職)の配置	○特別支援教室(かがやきルーム)における支援体制の充実 ⇒ かがやきルーム兼務担当配置校における利用状況調査を実施し, 小学校における支援体制の更なる充実と指導の効果を検証することで, 適切な支援体制の構築を推進していく。 ○通級指導教室の充実 ⇒ 通級指導教室の実施形態を従来の地区別拠点校方式から地区内サテライト方式としたことによる指導の効果を検証することで, よりよい実施体制を検討していく。	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
◆適切な就学先の決定に向けた関係機関との連携の充実	4月～ <ul style="list-style-type: none"> ・就学相談の開始 ・就学相談業務の見直しや相談体制の検討 ・R7年度入学予定児童に係る子ども発達センター及び特別支援学校との情報交換 5月～ <ul style="list-style-type: none"> ・就学に向けた年少・中児の保護者学習会の実施(年2回) 6月 <ul style="list-style-type: none"> ・R7年度特別支援学級新設に係る施設設備調査 7月～ <ul style="list-style-type: none"> ・発達支援ネットワーク会議の開催(年2回) 	○適切な就学先決定に向けた就学相談の実施 ⇒ 教育センターや子ども発達センターで実施する年中・年長児保護者向け学習会において、就学に向けた相談や学びの場についての情報を早期に提供することで、教育的ニーズに応じた適切な就学先を速やかに決定することができるよう、関係機関と連携して就学相談を効率的・効果的に実施していく。 ○合理的配慮の提供と切れ目ない支援の充実 ⇒ 医療的ケアなど特別な教育的支援を必要とする児童について、早期に発達センター及び保育課等と情報共有を行うことで、入学時に必要となる合理的配慮を把握し、関係各課と対応について検討を行う。 ⇒ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、切れ目なく支援を受けられるよう、宇都宮市発達支援ネットワーク会議と連携しながら、現在の様式を見直し、個別の支援計画の作成・活用を一層推進していく。	・R6.5教育委員会(報告) → 教育支援委員会から答申を受けた対象者の就学先について ・R6.5教育委員会(審議) → 教育支援委員会への諮問について ・R6.5教育委員会(審議) → 教育支援委員会委員の解職及び委嘱について
(2)不登校対策の推進			
◆関係各課と連携した不登校対策の推進	4月 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導推進強化全体会の開催 4月～ <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策プロジェクト便り発行(4月・7月) 5月 <ul style="list-style-type: none"> ・各課への照会・回答(R6の事業予定) 5月～ <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策プロジェクト会議(年間2回)及び作業部会(年間3回)開催 ・児童生徒指導強化連絡会の実施(25地域学校園:年2回) 7月～ <ul style="list-style-type: none"> ・宇大との連携協議会不登校対策分科会の開催 ・関係各課との個別の打合せ 	○関係各課と連携した不登校対策の推進 ⇒ 「不登校対策プロジェクト便り」の発行や不登校に係る各課の取組について進捗状況を確認するなど、引き続き、教育委員会各課と連携しながら支援の充実を図る。 ⇒ 関係各課が担当する教職員を対象とした研修会など、あらゆる機会を通じて、不登校対策の視点を取り入れた具体的な取組を積極的に発信する。 ⇒ 不登校の要因・背景を分析し、課題を明らかにした上で、新たな支援策を検討し、教育センターと各課がより一層連携しながら不登校対策の強化を図る。	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
教育センター ◆不登校未然防止対策の推進	4月～ <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセリングマネージャー連絡会(年2回)・メンタルサポーター研修会(年3回)の開催 ・別室登校支援の充実に向けたガイドラインの発行(4月・6月) ・教職員研修の実施(不登校対応力向上研修・学校教育相談基礎研修(年3回)・不登校対応スキルアップ研修(年3回)) ・メンタルサポーターモデル事業の実施:市内5中学校をモデル校とし、勤務を週3日から週5日に拡充した効果を検証。 ・不登校対策に係る学校訪問(小学校3校・中学校7校) 5月 <ul style="list-style-type: none"> ・WEBQUシステム説明会の実施 ・「Q-U」(小学校)の配付(6月実施)※小5のみ年2回(6月・11月)実施 ・「WEBQU」(中学校)の配信(6月・11月実施) 6月 <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談担当指導主事によるスクールカウンセラー・メンタルサポーターの活用状況の調査及び指導(新規9校・配置換え8校) 7月～ <ul style="list-style-type: none"> ・別室登校支援学生ボランティアの派遣(前期25校:7月～・後期15校程度予定:10月～) 	○未然防止を核とした不登校対策の推進 ⇒「Q-U」,「WEBQU」の活用を通して、学級集団の状態把握,いじめや不登校等の早期発見・早期対応を行う。個別回答やプロット図等から、早急な対応が必要な児童生徒や対人関係を築くことに困難を抱えている児童生徒を見取り、一人一人に必要な支援を行う。年間2回実施できる学年においては、1回目の結果を基に対応方針を立て、取組を実践し、さらに2回目の結果から、支援や方針の修正を図り、次年度に向け新たな取組を実践するなど、PDCAサイクルにより、生徒の実態に即した支援、居心地の良い学級づくり、不登校の未然防止の推進を図る。 ⇒ 教室で過ごすことに不安を感じている生徒の早期対応や不登校生徒が学校復帰を行う際の支援など、「別室登校支援の充実に向けたガイドライン」を参考に、不登校の未然防止を含めた別室登校支援のさらなる充実を図る。また、メンタルサポーターの勤務日数を拡充するモデル校5校を設置し、効果的な別室登校支援の在り方について検証を行うなど、新たな支援体制の構築を図る。	

	事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
教育センター	◆「学びの機会の保障」や将来の「社会的自立」に向けた支援の推進	<p>4月 ・全小中学校へのオリジナル動画コンテンツ(「U@りんくす」職業インタビュー)の提供</p> <p>4月～ ・各適応支援教室の支援開始(7/17現在 「とらいあんぐる」:小6名 中29名 計35名 「まちかどの学校」:小29名 中46名 計75名 「U@りんくす」:小17名 中37名 計54名)</p> <p>6月 進路に係る合同説明会(相談学級・適応支援教室利用者対象:来所児童生徒32名,来所保護者45名,オンライン参加者13ログイン,参加校11校) ・適応支援教室合同行事の実施(6/17 参加児童生徒33名)</p> <p>6月～ ・フリースクール等の民間施設への視察(2施設) ・不登校対応関係機関連絡会の開催(教育センター相談室,とらいあんぐる,まちかどの学校,U@りんくす,旭中相談学級,築瀬小相談学級)</p> <p>7月 ・進路に係る合同説明会(市内全小中学生対象:参加校12校)</p> <p>7月～ ・「とらいあんぐる」,「まちかどの学校」利用児童生徒及び保護者との面談 ・「U@りんくす」利用児童生徒及び保護者とのオンライン面談 ・「とらいあんぐる」,「まちかどの学校」と学校との面談(情報交換)</p>	<p>○「学びの機会の保障」や将来の「社会的自立」に向けた支援の推進 ⇒ 各適応支援教室間で通級の状況や活動プログラムについて情報共有を図るとともに,民間団体やボランティア等の協力を積極的に活用し,児童生徒の興味・関心に応じた多様な活動プログラムを提供する。 ⇒ 適応支援教室と相談学級が連携し,支援のノウハウを共有するとともに,合同の活動プログラム等を実施することにより,支援の充実を図る。</p>	

令和6年度 第1回社会教育委員の会議の結果について

- 1 開催日時 令和6年7月23日（火） 10時00分～11時10分
- 2 開催場所 宇都宮市役所 14階 14大会議室
- 3 出席者 宇都宮市社会教育委員 16名
- 4 傍聴者 0名

5 内 容

- ・ 副委員長選出
⇒副委員長を成島委員として選出
- ・ 議事
 - (1) 報告事項
 - ①「第3次宇都宮市地域教育推進計画」後期計画の実績評価について
⇒ 後期計画の実施状況を報告
 - ②令和5年度図書館事業に係る図書館参考人からの意見について
⇒ 図書館参考人から図書館事業について意見聴取した結果を報告
 - (2) その他
 - ・ うつのみやこども賞 40周年記念事業の概要について
⇒ 開催日等の実施概要を報告
 - ・ 令和7年宇都宮市二十歳を祝う成人のつどいの開催概要について
⇒ 開催日等の実施概要を報告

6 主な意見

【報告事項】②令和5年度「第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画」に関する施策事業の実績評価について

御意見① 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設置が努力義務化されたが、宇都宮市では設置されていないのはなぜか。

回答 本市には「魅力ある学校づくり地域協議会」があり、国の提唱するコミュニティスクールと近い役割を担っているため、慌てて導入することはないという意見があった。しかし、全国で7割を超える自治体が導入している現状もあり、改めて宇都宮市としての方針を議論する必要があるということで、今年度から外部の有識者を交えた検討会議を立ち上げた。この検討会議で、向こう2年間で宇都宮市として導入するかどうかを検討していく。

御意見② 地域協議会のシステムは、非常に素晴らしい制度だと思うので、地域と学校で話し合って、より良いものにしていただきたい。このほか、結婚するまでの若い方が自分を見つける、地域と関わりを持っていくということを、地区市民センターなどをはじめ、声をかけ合いながらやってほしい。

御意見③	学び直しについて、対象は社会人に限らないのではないかと。もっと広く対象を想定した方がいいのではないかと。
回答	現在は、学び直しの機会を創出する最初の段階であるため、モデルとしてターゲットを30～40代の働き世代に絞り、実施しているところである。この結果をもとに、今後、対象の設定や内容の改善に役立てていく。
御意見④	学び直しのなかで「大学生等の参加による多世代交流の推進」や「人づくり啓発事業の実施」などを各地域で進められるよう、支援も進めてほしい。
御意見⑤	これからの社会教育を検討する中で、指導者や支援者となる人材確保が大きな問題となると思う。新しい方に社会教育を勉強していただくなど、人材養成に力をいれてほしい。

【その他】① うつのみやこども賞40周年記念事業の概要について

御意見①	保護者からは「子どもがあまり読書をしていない」という評価があるが、実際の子どもはそうではない。「うつのみやこども賞」についても、学校が子どもに対し周知していると思うが、行政にも努力してもらい、子どもの読書の実態について保護者への周知が適切に行われるようにしてほしい。
------	---

【その他】② 令和7年宇都宮市二十歳を祝う成人のつどいの開催概要について

御意見①	宇都宮市ではこれまでの「成人のつどい」において、大きな問題は起きていないが、他の自治体では問題行動を起こす成人について報じられている。宇都宮市では問題行動を起こす成人はいないと思うが、万が一の際にはどのような危機管理体制が敷かれているかを教えてほしい。
回答	予め成人に対し、危険行為等を行った場合には退席いただくことを案内しているほか、危機管理マニュアルも委員会ごとに準備して対応している。このほか、警察署へ成人のつどいについての情報提供を行っている。
御意見②	成人のつどいで「宇都宮の歌」を歌うが、ほとんどの成人がこの歌を歌えず残念である。前もって歌うことを知らせるなど、みんなが歌えるようになる工夫があると良い。